

其ノ二 斥

候

0692

〔其ノ二、斥候〕

目次

- 一、潜伏斥候奇襲ニ依リ偉功ヲ奏セシ戦例……………(一三)
- 二、潜伏斥候ノ勇猛且堅韌ナル  
決意克ク重大ナル任務ヲ達成セル戦例……………(一五)
- 三、小隊長ノ企圖ヲ察知セズ斥候ノ  
動作ノ不適當ナル爲好機ヲ逸シタル戦例……………(一四)
- 四、沈著ヲ缺キ匪賊ニアラザルモノヲ  
匪賊ト誤認シ猛射セル潜伏斥候ノ戦例……………(一五)
- 五、線路巡察隧道通過ノ際  
無警戒ノ爲不覺ヲ取ラントセシ戦例……………(一七)

0693

# 一、潜伏斥候奇襲ニ依リ偉功ヲ奏セシ戦例

昭和十二年七月下旬ニ至リ、當地區内ニ於ケル匪團、馬德善(匪首以下六・七〇名)ハ、日滿軍警ノ積極的討伐ニ依リ、極度ノ糧食難ニ陥リ、匪首以下七・八名ノ小匪トナリ、草木ノ繁茂期ト作物ノ收穫期トニ乗ジテ

各集團部落ニ膚接シテ出沒頻繁ナリキ。

分遣隊ハ此等ノ小匪ノ捕捉殲滅ノ目的ヲ以テ、長以

下八名ヨリナル三組ノ潜伏斥候ヲ派遣セリ。

當時(自八月一日)至(八月十日)間ニ互リ連日ノ降雨ト、加フル

ニ附近一帯ハ湿地ニシテ、警戒ハ非常ニ困難ナリキ。

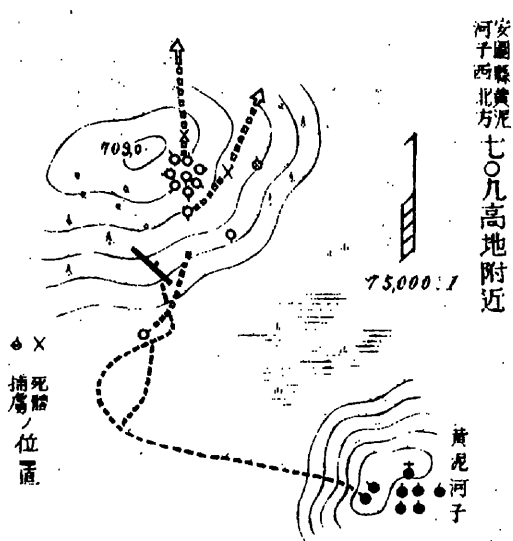
高木潜伏斥候ハ、八月三日午後二時頃密林中ヨリ武

裝匪ノ一名通過スルヲ發見シ、斥候ハ之ヲ追跡スルヤ

突如五〇〇米前方ノ密林中ニ、約一〇名ノ匪賊ノ雨宿

リ中ナルヲ發見シ、密林ヲ利用シ匍匐近迫シ、敵前三

〇〇米附近ニ至ルヤ、敵ノ歩哨ニ發見サレ射撃ヲ受ケ



シヲ以テ、直ニ一齊射撃ヲ加ヘタリ。敵ハ地形ヲ利用シテ抵抗セルモ、我が有效ナル射撃ニ依リ遂ニ退却セリ。斥候ハ機ヲ失セズ前進セルモ、密林ノ爲ニ匪影ヲ失ス。

【本戦闘ノ效果】

敵ノ遺棄死體

捕虜

小銃

其ノ他 糧食若干

〔右戦闘ニ依リ得タル教訓〕

匪賊戦闘ハ奇襲ニアルコトヲ痛感セリ。

若シ敵ニ攻勢ニ出ラレタレバ、地形ノ不利ト兵力ノ劣勢ニ依リ必ラス相當ノ損害ヲ受クルヤ必セリ。

二、潜伏斥候ノ勇猛且堅確ナル決意

克ク重大ナル任務ヲ達成セル戦例

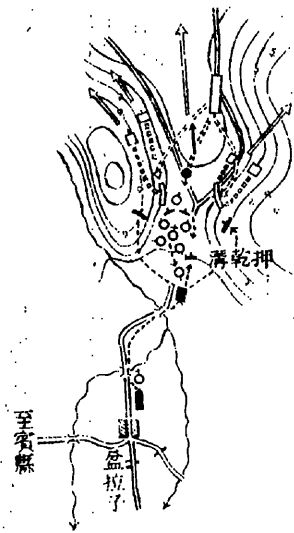
歩兵第三十四聯隊、第七中隊、上等兵和田伊勢松以下七名ハ、昭和十年七月七日午後十一時頃、濱江省珠河縣

0695

押乾溝（チエヌクンコウ）山中三叉路ニ潜伏斥候トシテ警戒中、チエツコ機關銃ニテ有スル共匪約八〇名來襲シ、斥候ヲ包圍シ、斥候ノ左翼ニ現レ、殆ンド三〇米前ニ接近シ來レリ。上等兵ハ益々沈著部下ヲ激勵シ其ノ位置ヲ固守シ、大ニ奮闘ニ勉ムレドモ、敵ハ我ニ十數倍ノ兵力ナレバ、忽チ二名ノ負傷者ヲ出セリ。敵ハ衆ヲ恃ミテ着々我ニ近迫シ、遂ニ十數米トナレリ。下士哨ノ苦戰ハ其ノ極ニ達シタリ。

一、戰鬥ノ狀態及天候

- 1 密林地帯ニシテ平地ハ草多シ
- 2 曇リ月アリ



害ヲ與フルヲ得タリ。之實ニ和田上等兵以下ガ沈著剛膽ナル動作ヲ以テ、現在地ヲ固守セシニ依ルベシ。

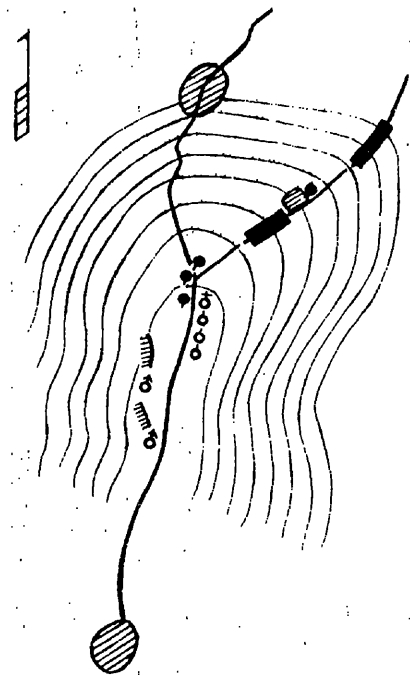
上等兵以爲、此ノ儘ニテハ下士哨ノ全滅ハ火ヲ見ルヨリ明カナリ。然レ共退却セバ、匪ハ追撃シ來リ、分駐小隊ノ危険トナルヤ又明カナル所ナリ。死守ダ!!ト固キ決心ヲナシ、從容トシテ部下ヲ指揮シ、自若トシテ射撃ヲ繼續シ、頑強ニ抵抗シ、毫モ動搖セズ。然ル内ニ小隊ヨリ増援隊來リ共ニ協力應戰セシ爲、「流石」ノ敵モ多數ノ遺棄死體ヲ殘シ、散ヲ亂シテ東方ニ退却セリ。之ガ爲、中隊主力其他ノ部隊ト全ク連絡ナキ小隊モ、完全ニ其ノ任務ヲ遂行シ得、然モ匪ニ多大ナル損

0696

### 三、小隊長ノ企圖ヲ察知セズ

#### 斥候ノ動作ノ不適當ナル爲好機ヲ逸シタル戦例

昭和十年十月二十五日、濱綏線二府甸子附近ノ山中、某小隊長以下三〇名、該地區ヲ肅清中、無名部落ニテ、該部落ニ向ヒ前進中トノ報ニ接シ、



テ、徒匪一〇〇名前方四里ノ地點ニアリ、小隊長ハ奇襲ニヨリ殲滅セント計畫シ、一里餘前進シ、要圖ノ如ク山中ニ待機シアリタリシ所、先方ニ出シアリシ斥候上等兵以下四名（道案内滿人一名）ハ、小隊長ノ其ノ企圖ヲ察知セズ、敵斥候ニ遭遇スルヤ、直ニ攻撃セシ爲、敵主力ハ日本軍アルヲ知り逃走シ、遂ニ好機ヲ逸シタリ。

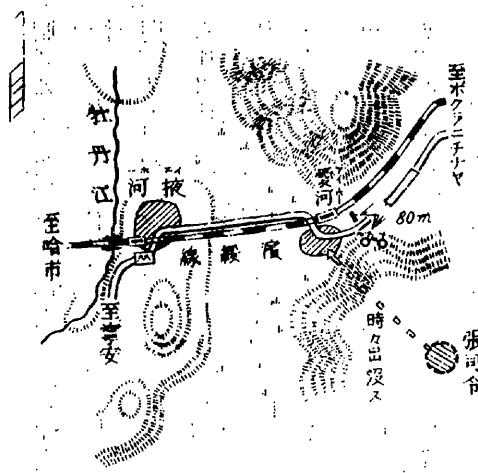
0637

#### 四、沈着ヲ缺キ匪賊ニアラザルモノヲ

##### 匪賊ト誤認シ猛射セル潜伏斥候ノ戰例

(1) 昭和九年、北鐵東部線掖河（牡丹江東方約一里、愛河西方約一〇〇〇米）ニハ、歩兵第六十八聯隊（一支隊ハ一中隊缺）主力、前駐滿部隊ト交代シ日向淺ク小匪團ノ出没頻々タリ。依ツテ愛河站ニ潜伏斥候（夜間）ノミヲ配置シ之ニ備フ。

(2) 六月四日、某曹長ハ部下十四名（LG一ヲ附ス）ヲ指揮シ同地ニ潜伏中、同夜小量ノ降雨アリ。視界極メテ狭ク、斥候長以下緊張裡ニ潜伏中、同夜二時頃、東方約二三百米ノ地點ニ於テ人馬ノ音聲盛ニ聞ユ。一同「スハ匪賊」ト直感シ、直ニ之ヲ邀撃スベク配置ニツク。斥候長ハ逸ル兵ヲ戒メツツ、匪群ヲ至近距離ニ於テ撃滅セント決心シ、黒白定マラザル前方ヲ透視スルニ、蜿蜒長蛇ノ一群ハ我ニ向ヒ前進中ナリ。彼我ノ距離ハ次第ニ短縮シ、距離約一〇〇米ニ接近スルヤ已ニ兵ハ戰場心理ニカラレ、之ヲ射撃セントス。斥候長之ヲ叱咤シツツ、距離約五〇米（實際ハ八〇米アリ）ニ近接スルヤ射撃ヲ命ジ、一舉ニ之ヲ射撃ス。不意ノ急襲ニ匪群ハ阿鼻叫喚、散ヲ亂シテ潰走ス。一同勇躍之ニ益々猛射ヲ加ヘツツアリシガ、午前二時三十分、北滿ノ白夜ハホノボノト明ケ、前面ニ展開セラレタル光景ハ實ニ笑止千萬、亦苦笑、



赤面ノ至リナリ。

一三六

【原因】

匪團ト見タルハ當時吉川組、軍ノ工事ヲ急グノ餘リ、約五〇臺ノ馬車夫ヲ雇傭シ、木材運搬ノ爲來レルモノナリ。(幸ヒ苦力一輕傷、滿馬三ヲ死傷セシメタルノミナリ)

【教訓】

- 一、匪情ニ關スル先入主觀念、戰場心理(初陣ノ恐怖心)
- 二、前方ニ斥候ヲ派遣シ敵ヲ確認スルヲ要ス。

備考

愛河南方約三里ニ張司令ノ(部下約一〇〇)本據在リ時々同地附近ニ出沒ス

0699



## 五、線路巡察隧道通過ノ際

### 無警戒ノ爲不覺ヲ取ラントセシ戰例

馬鞍山分遣隊ニ於テ、昭和十二年十月二十日午前十一時三十分、同所分遣隊發、六家子間ノ線路巡察ヲ實施セル某軍曹以下八名ハ、日頃匪情ナキヲ以テ全ク對敵觀念ナク、六家子ニ向ヒ大平嶺隧道ヲ通り前進セリ。

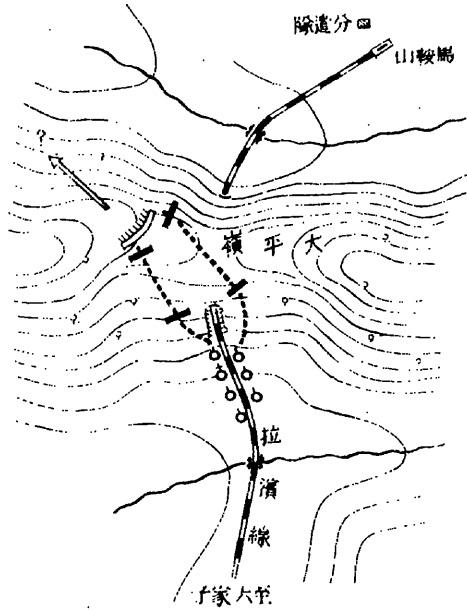
其ノ時ハ何等異狀ナク無事通過シ、六家子驛ニ至リ、各警備機關トノ打合セラナシ、歸還ノ途ニ就ク。當大平嶺ノ山ハ、要岡匪陣地附近ハ樹木密生シ、適當ノ潜伏位置タリ。又以前ハ匪團ノ總テガ稜線ヲ通過シテ鐵道ヲ横斷シ居タリ。高サ二〇〇米位、隧道ノ長サ一〇〇米位ナリ。

歸還ノ途中當隧道ノ山脚ニ先頭ガ差掛ルヤ、要岡ノ地點ヨリ急射撃ヲ受ケ、山田一等兵ハ忽チ臂部貫通銃創ヲ受ク。某軍曹ハ要岡ノ如ク、二手ニテ挾撃シタルモ、匪團ハ西北方ニ退却シ、終ニ姿ヲ見失フニ至ル。

匪賊ノ死體皆無、

我ガ負傷 一、

【本戰鬪ノ教訓】



(1) 隧道通過ノ際ハ、共ノ半數ヲ通過セシメテ、半數ハ常ニ稜線上ヲ越エシムルヲ要ス。

(2) 匪賊情報ナクトモ、常ニ對敵觀念ヲ旺盛ニシ、長ハ各兵ニ警戒ノ任務ヲ與フルヲ要ス。

現地ニ於テハ、特ニ敵ニ行動ヲ見ラレアルヲ以テ、歸還時待伏ヲ受クルコト多キヲ例トス。故ニ特ニ警戒兵ヲ出スヲ要ス。

0701